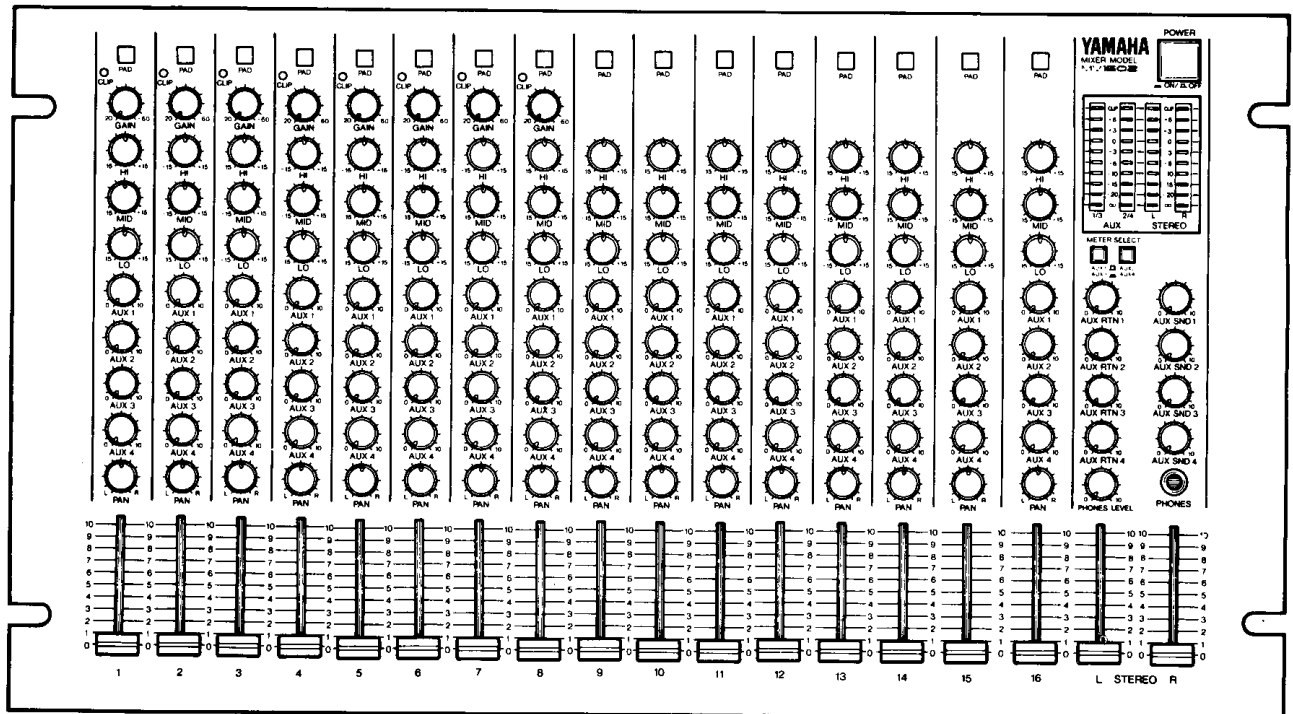


YAMAHA MIXER

MV1602

取扱説明書



このたびは、YAMAHAミキサーMV1602をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
MV1602の性能をフルに発揮させると共に、いつまでも支障なくお使いいただくため、ご使用前にこの説明書をよくお読みいただきますようお願いいたします。

目次

ご使用前に	2
フロントパネル	3
リアパネル	7
信号の流れ	9
セットアップ例	11
仕様	12
寸法図&レベルダイアグラム	13
ブロック	14
サービスについて	

特長

- 16チャンネル18インプット、1ステレオアウト、6U (EIA規格) ラックマウントタイプミキサー。MV1602は16チャンネルミキサーですが、そのうち15、16チャンネルがステレオ入力なので、実質18のインプットを装備していることになります。様々なサウンドソースを入力でき、ステレオの状態にミキシングして出力することができます。サンプラーやリズムマシンなどの、マルチアウトプット端子を装備した機器にも余裕で対応できます。
15、16チャンネルには、ステレオアウトのシンセサイザーや、リズムマシン、オーディオソースなどを接続。1チャンネル分のつまみでL,R同時にコントロールすることが可能です。
また、キーボードミキサーなどの、サブミキサーとして使用する場合、メインミキサーに信号を送るのに最適な、キャノンアウト (バランスタイプ) を装備しています。
- 4系統のAUXセンド、リターン (ステレオリターン) 装備。4系統ものAUXセンド、リターンが、マルチエフェクトや、ステージモニターなどにフレキシブルに対応します。
- 独立サブイン/サブアウト端子装備
この端子を使うことにより、2台目のMV1602を簡単に増設することができます。32チャンネルのミキサーとして機能させることができます。また、バスラインを共通化できるので、例えば、1台のリバーブプロセッサを2台のMV1602で共用することができます。
サブインのL,R端子は、ステレオL,Rのバスラインに直結しているため、音量をコントロールできる楽器や、オーディオなどを接続できます。したがって、更にインプット数が増えることになります。(音量はソース側で調節します。)
サブアウトのL,R端子は、プリ・マスターフェーダーです。例えば、ステージ上でメインミキサーへ送る信号をステレオアウトから送っていても、サブアウトから、モニター用の信号を取り出せば、独自の音量でモニターすることができます。(音量は接続したパワーアンプ又はパワードスピーカーで調整します。)
- 全チャンネルPADスイッチ (20dB) 装備。
出力の大きなライン入力も、PADスイッチにより適正レベルで入力することができます。
- 1~8CHはマイクロフォン対応。
チャンネル1~8には、GAINコントロールを装備しており、PADとあわせて、8本までのマイクロフォンの入力レベルを調整することができます。また、CLIPインジケータを装備しているため、入力レベルを監視することができます。
- 4連10ポイントLEDレベルメーター装備。
MV1602には、出力レベルの監視のために、4連10ポイントのLEDレベルメーターを装備しています。ステレオL,Rは単独、AUX4系統は切り替えにより、出力レベルを検出します。

ご使用の前に

設置場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど。
- 温度の特に低い場所。
- 湿気やホコリの多い場所。
- 振動の多い場所。

無理な力を加えない

スイッチやツマミ類に無理な力を加えることは避けてください。

電源コードを大切に

コードの断線やショートを防ぐため、電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを引っばらないで必ずプラグを持って抜いてください。外出などで長時間ご使用にならないときは、電源コードのプラグをコンセントからはずしてください。

本機は国内仕様です。必ずAC100Vの電源コンセントにプラグを差し込んでお使いください。100V以外（例えば200V）の電源には絶対に接続しないでください。

セットの移動

セットを移動する場合には、接続コードのショートや断線を防ぐため、他の機器との接続コードを取りはずしてから動かしてください。

接続について

接続は、各機器の電源スイッチをOFFにしてから行うか、または各ボリュームを絞ってから行ってください。

XLRタイプコネクタについて

本機のXLRタイプコネクタはDIN規格に基づき配線されており、1番シールド（アース）、2番ホット、3番コールドの接続形式です。

ケースを開けない

故障や感電の原因となりますので、ケースを開けたり改造したりしないようにしてください。

外装のお手入れは

外装をベンジンやシンナー系の液体で拭いたり、近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布したりすることは避けてください。お手入れは、必ず柔らかい布で乾拭きするようにしてください。

落雷に対する注意

落雷などの恐れがあるときは、早めにコンセントから電源プラグを抜きとってください。

保証書の手続きを

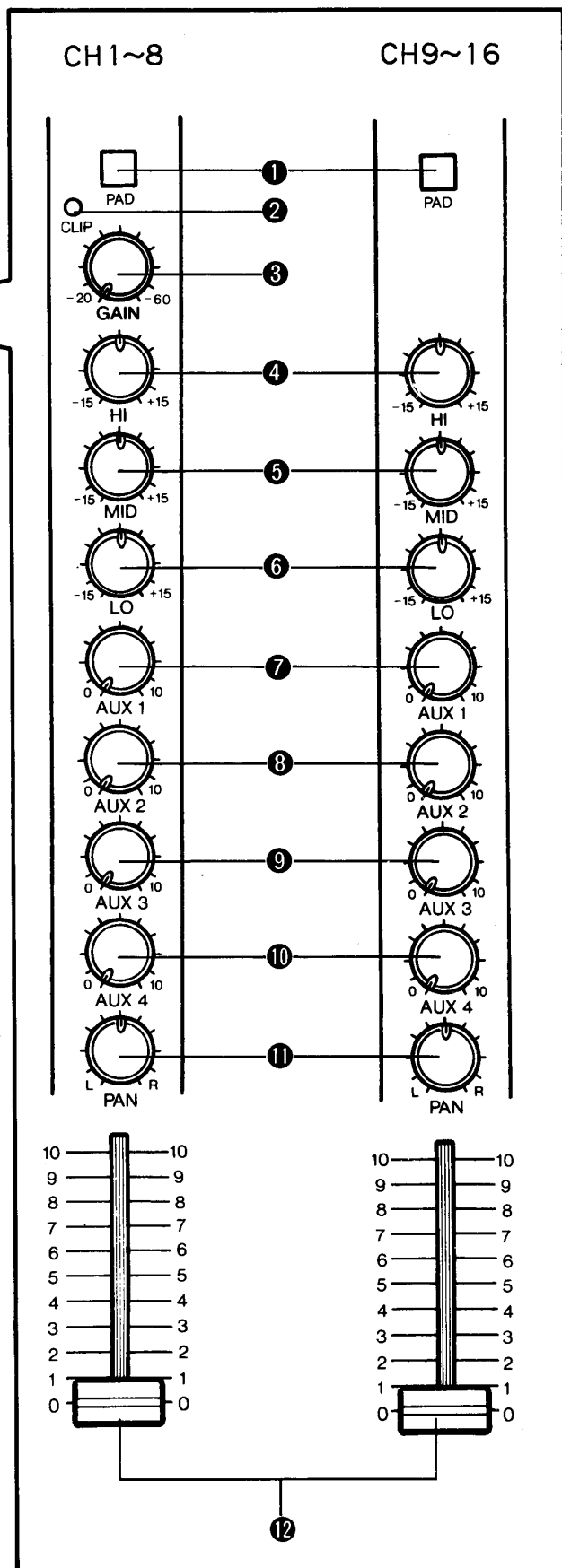
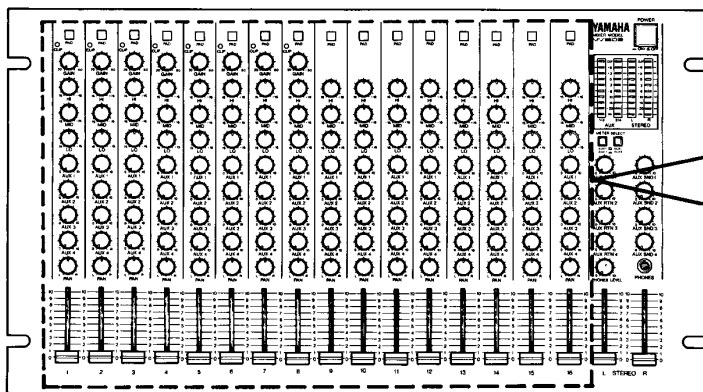
お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行ってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合には実費をいただくこととなりますので、充分ご注意ください。よろしくお願いいたします。

保管してください

この取扱説明書をお読みになった後は、保証書とともに大切に保管してください。

フロントパネル

インプット部 各部の名称と機能



①. PADスイッチ

リアパネルのINPUTジャック⑮,⑯より入力した信号の入力レベルを、20dB減衰させるためのスイッチです。スイッチ「」状態がON (減衰)、「」状態がOFFです。

②. CLIPインジケータ

リアパネルのINPUTジャック⑮,⑯のCH1~8より入力した信号の入力レベルが、クリッピング・レベルの3dB手前に達した時、点灯します。このインジケータが頻繁に点灯する場合は、INPUTジャックに接続した機器の出力レベルを下げるか、本機のGAINコントロール③で入力感度を調整します。調整しきれない場合は、PADスイッチ①をONにしてから、改めてGAINコントロール③で調整してください。

③. GAINコントロール -20dB~-60dB

INPUTジャック⑮より入力した信号を、最適なレベルで入力できるように入力感度を調整します。CH1~8に装備されておりマイクロフォンなどの感度調整幅の大きな機器の接続に便利です。②のクリップ・インジケータがピーク時に一瞬だけ点灯し、⑫のチャンネル・フェーダーが目盛「10」付近で使用できるように設定すると、S/N比とダイナミックレンジのバランスのとれた良好な状態で使用できます。

④. HIイコライザー

高域の音質を調整します。10kHzを基準周波数として±15dBの範囲でブースト（強調）、またはカットすることができます。

ツマミ位置“0”でフラットな特性となります。

⑤. MIDイコライザー

中域の音質を調整します。2kHzを中心周波数として±15dBの範囲でブースト（強調）、またはカットすることができます。

ツマミ位置“0”でフラットな特性となります。

⑥. LOイコライザー

低域の音質を調整します。100Hzを基準周波数として±15dBの範囲でブースト（強調）、またはカットすることができます。

ツマミ位置“0”でフラットな特性となります。

⑦、⑧、⑨、⑩. AUXコントロール

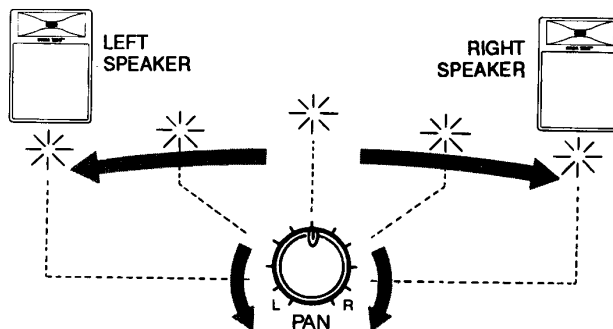
本機リアパネルのAUX SEND 1,2,3,4ジャック⑦に、リバーブプロセッサやディレイマシンなどのエフェクターを接続した場合に操作します。そのエフェクターで効果をかけるチャンネルのツマミをまわしてください。右にまわすほど、エフェクターへの送り出しレベルが上がり、効果も深くかかります。チャンネルごとに設定してください。

* AUX 1,2 ツマミでコントロールする信号は、イコライザーとチャンネル・フェーダーの回路を通った後に送り出される（ポスト・イコライザー/ポスト・フェーダー）ため、イコライザーとチャンネル・フェーダーで補正された音が出力されます。

* AUX 3,4 ツマミでコントロールする信号は、イコライザーとチャンネル・フェーダーの回路を通らない（プリ・イコライザー/プリ・フェーダー）ので、GAIN（1～8CHのみ）やPADスイッチで入力レベルを調整しただけの信号が、そのまま送られます。

⑪. PAN（パンポット）

チャンネル・フェーダー⑫でレベル調整された信号をSTEREO L,Rへ送る時のL,Rのバランス（定位）を設定します。R側に回すと音像が右に、L側に回すと左に移動します。ツマミ位置がセンター（C）で中央に定位します。

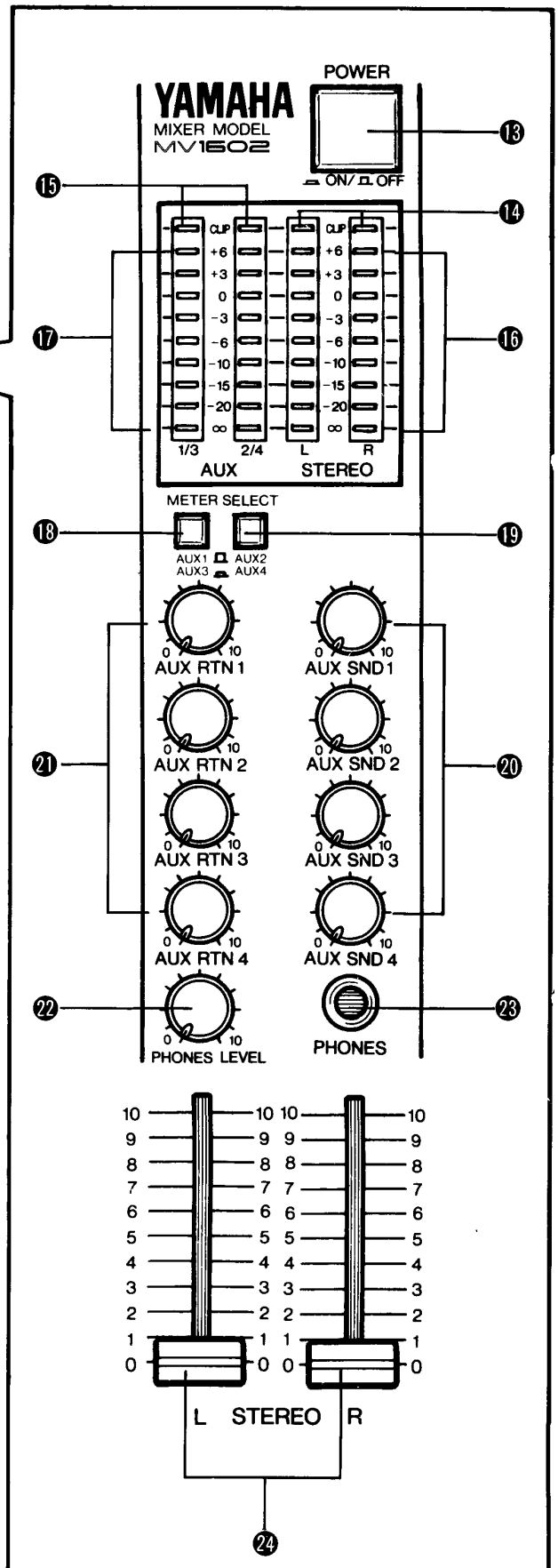
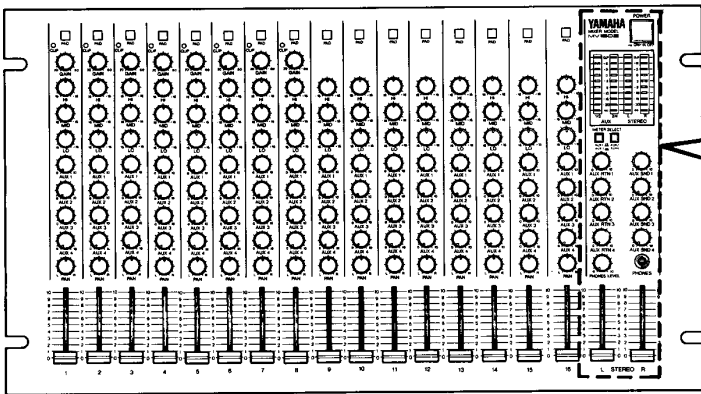


⑫. チャンネル・フェーダー

各チャンネルの音の大きさを決めるためのツマミです。チャンネルごとに設定し、楽器間のバランスをとってください。

* 使用していないチャンネルは、ツマミを“0”の位置にしてください。

マスター部



13. POWERスイッチ

電源スイッチです。ONにすると、レベル・メーター⑬、⑭の“∞”の位置のインジケーターが点灯します。

14. STEREO OUTクリップ・インジケーター

CH1~16の信号をミックスして、最終的にSTEREO OUTジャック(リアパネル)⑮へ送り出される出力レベルが、クリッピングの3dB手前に達した時、点灯します。このインジケータが頻繁に点灯する場合は、STEREOマスター・フェーダー⑯で調整してください。

15. AUX SENDクリップ・インジケーター

CH1~16の信号をミックスして、最終的にAUX SENDジャック(リアパネル)⑰へ送り出される出力レベルが、クリッピングの3dB手前に達した時、点灯します。
 メーター・セレクト・スイッチ⑱の“■”でAUX1のレベルを、“■”でAUX3のレベルを表示します。
 ⑲の“■”でAUX2のレベルを、“■”でAUX4のレベルを表示します。このインジケータが頻繁に点灯する場合は、AUX SENDコントロールツマミ⑳で調整してください。

16. レベル・メーター (STEREO)

STEREO OUTジャック/コネクター (リアパネル) への出力レベルを表示するLEDレベル・メーターです。このメーターを見ながら、STEREOマスター・フェーダー²⁴を調整してください。

0VUのLEDが点灯した時が、規定出力レベル (+4dB) で出力された時です。

17. レベル・メーター (AUX)

AUX SENDへの出力レベルを表示するLEDレベル・メーターです。メーター・セレクト・スイッチ¹⁸の "■" でAUX1の出力レベルを、"■" でAUX3の出力レベルを表示します。スイッチ¹⁹の "■" でAUX2の出力レベルを、"■" でAUX4の出力レベルを表示します。このメーターを見ながら、AUX SENDコントロールツマミ²⁰を調整してください。

18. メーター・セレクト・スイッチ (AUX1/3)

AUX SEND レベル・メーターの出力表示をAUX1、またはAUX3に切り換えるスイッチです。

19. メーター・セレクト・スイッチ (AUX2/4)

AUX SEND レベル・メーターの出力表示をAUX2、またはAUX4に切り換えるスイッチです。

20. AUX SENDコントロール

各チャンネルのAUXコントロール1~4でレベル調整した信号を、それぞれ最終的にまとめてレベル調整し、AUX SENDジャック (リアパネル) ²¹に接続したそれぞれのエフェクターへ送り出すツマミです。(AUX1~4を別々に調整できます。)

21. AUX RTNコントロール

AUX RETURNジャック²²に接続したエフェクターからの入力レベルを、調整するためのツマミです。このツマミでレベル調整したエフェクト信号は、各チャンネルの信号とミックスされSTEREO OUTジャック/コネクター³¹(リアパネル) に送り出されます。

22. PHONES LEVELコントロール

PHONESジャック²³への出力レベルを調整するためのツマミです。

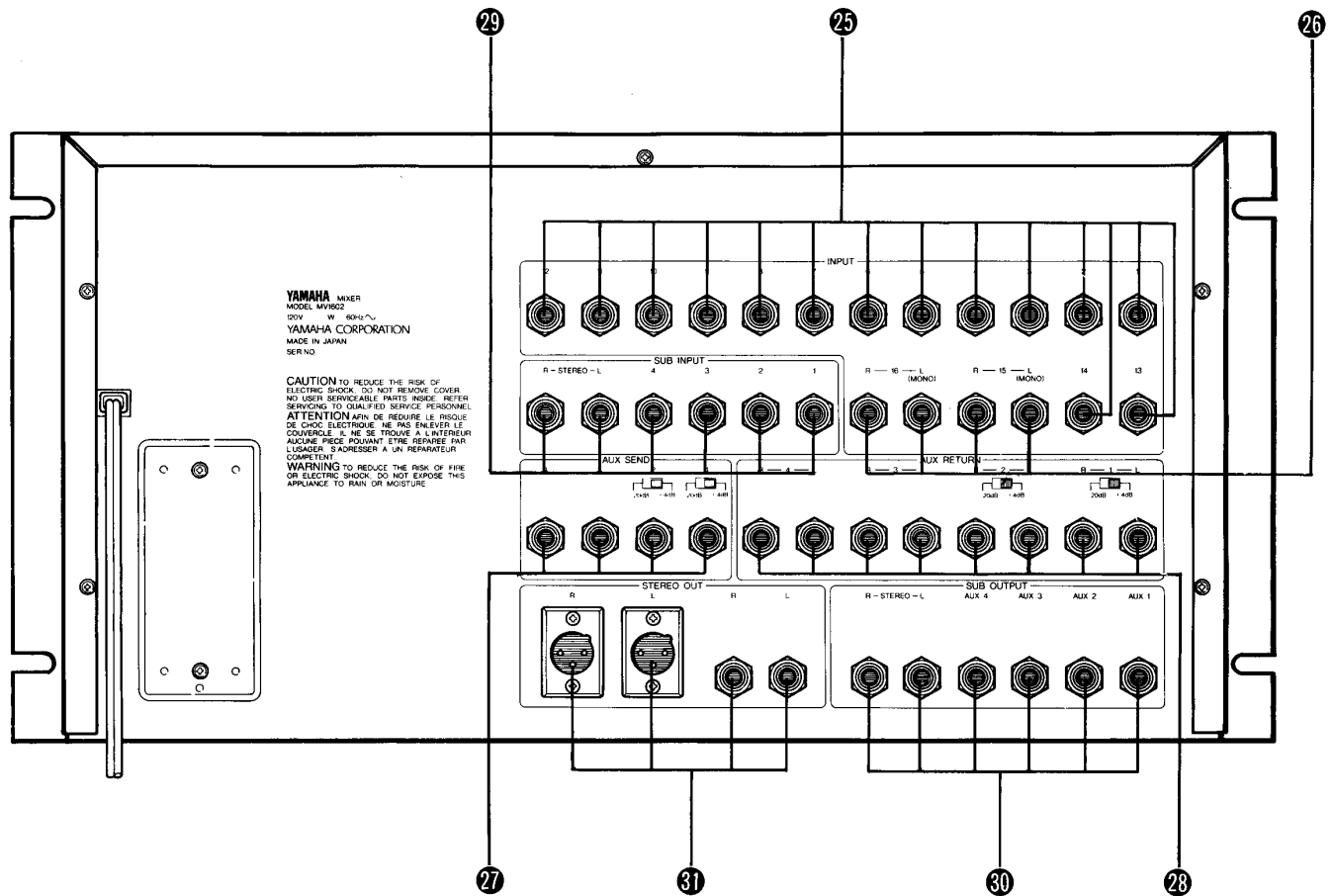
23. PHONESジャック

STEREO OUTジャック/コネクター³¹に出力される信号と同じものを出力するジャックです。ステレオ・ヘッドフォンを接続し、ミキシングの状態をモニターします。

24. STEREOマスター・フェーダー L,R

各チャンネルおよびAUXリターンからのL,Rバスの信号を全体的にレベルコントロールし、リアパネルの、STEREO OUTジャック/コネクター³¹へ送られる最終的な音量レベルを設定します。

リアパネル



25, 26. INPUTジャック

電気楽器や電子楽器等を接続するジャックです。CH1~8は、マイクロフォンの接続も可能です。

CH15,16 26は、ステレオ入力になっていますから、ステレオ・アウトのシンセサイザー、テープ・レコーダーなどのオーディオ類など、ステレオ・アウト端子を持つ機器を接続するのに便利です。

27. AUX SENDジャック 1~4

リバーブ・プロセッサやディレイ・マシンなどのエフェクターへ、各チャンネルのAUXコントロールツマミ1~4のミックスされた信号を送り出すジャックです。

AUX SENDジャック1,2には、+4dB/600Ωと-20dB/600Ωの出力レベル切り替えスイッチを装備していますので、接続するエフェクターに合わせて切り替えてください。

AUX SENDジャック3,4は+4dB/600Ωです。

28. AUX RETURNジャック 1~4

外部のエフェクターで得た効果を、ステレオで入力できるジャックです。

AUX RETURNジャック1,2には、L,R連動で、+4dB/600Ωと-20dB/600Ωの入力レベル切り替えスイッチを装備していますので、接続するエフェクターに合わせて切り替えてください。

AUX RETURNジャック3,4は+4dB/600Ωです。

29. SUB INPUT

もう1台のMV1602を用意して、チャンネルの増設を行うときに非常に便利です。(合計32チャンネルとなります。)

●L,Rジャック

このジャックへ入力した信号は、各チャンネルの信号とミックスされて、STEREOマスター・フェーダーで、全体的にレベル・コントロールされた後STEREOOUT L,Rジャック/コネクターへ出力されます。

●AUX 1~4ジャック

このジャックへ入力した信号は、各チャンネルのAUX1~4の信号とミックスされて、AUX SEND 1~4ジャックへ出力されます。

30. SUB OUTPUT

●L,Rジャック

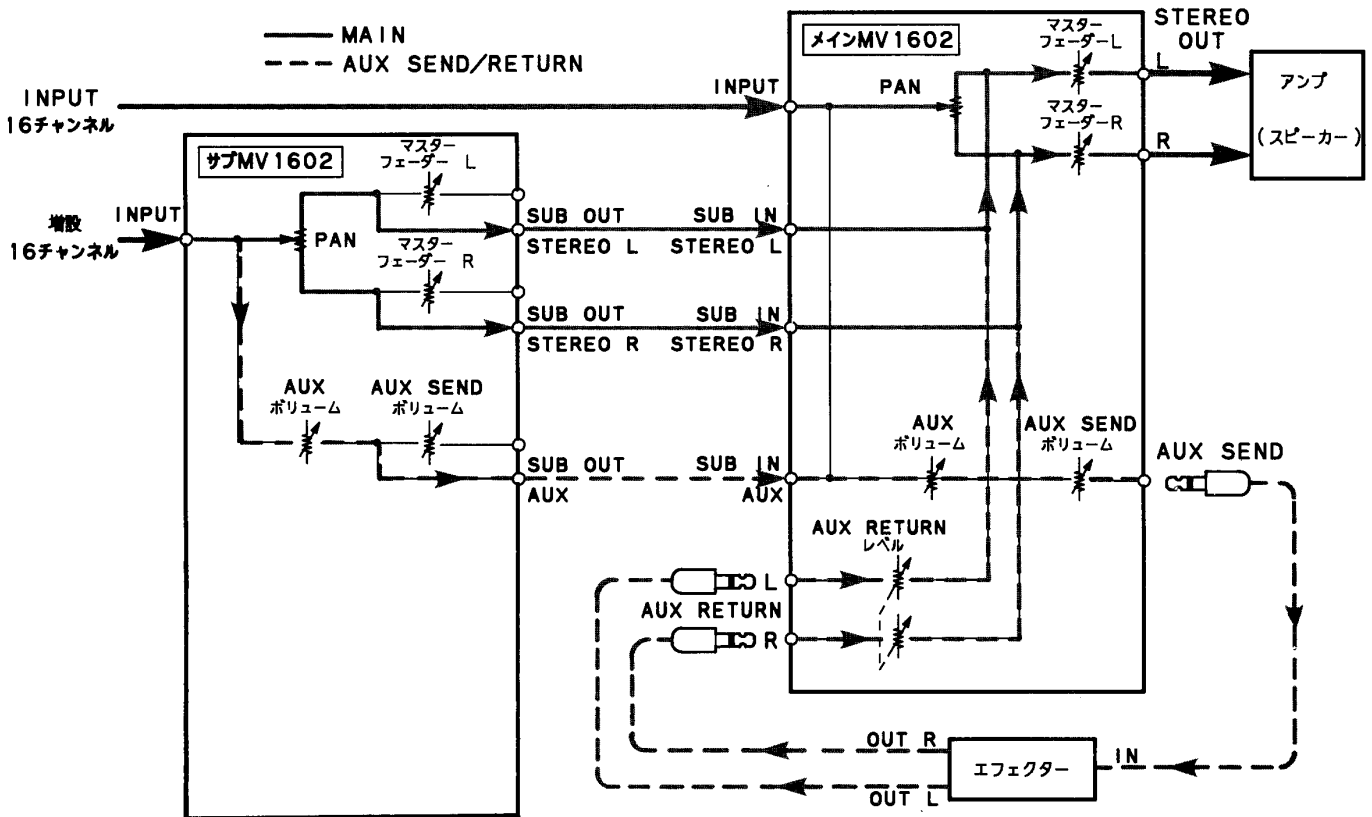
STEREOOUT L,Rジャック/コネクターへ出力される信号と同じものが出力されます。

なお、信号はSTEREOマスター・フェーダーの前段より取り出されるため、STEREOマスター・フェーダーで出力レベルをコントロールすることはできません。

●AUX 1~4ジャック

AUX SEND 1~4ジャックへ出力される信号と同じものが出力されます。

なお、信号はAUX SENDコントロールツマミの前段より取り出されるため、AUX SENDコントロールツマミで出力レベルをコントロールすることはできません。



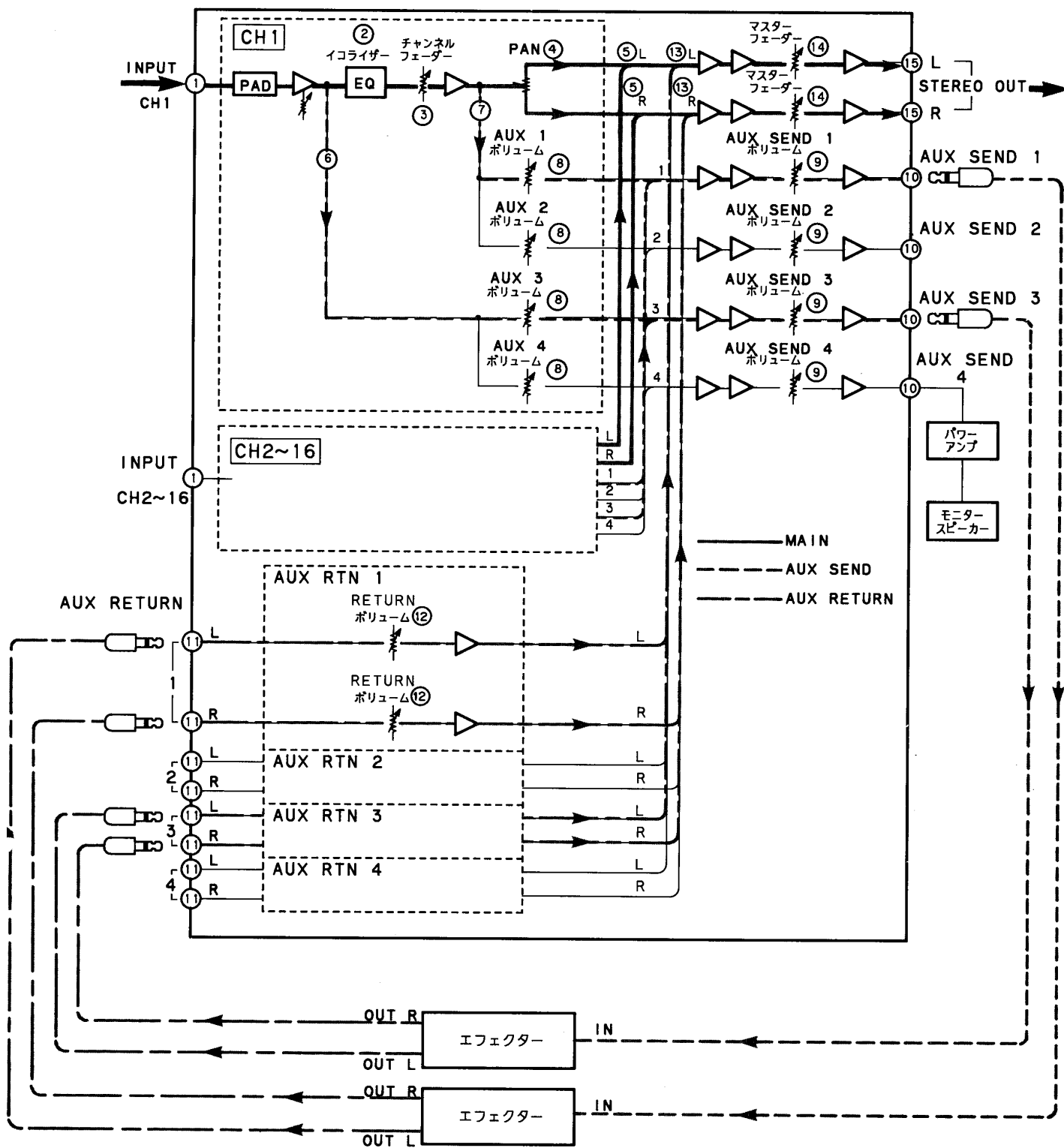
信号の流れ

⑪. STEREO OUTジャック/コネクター

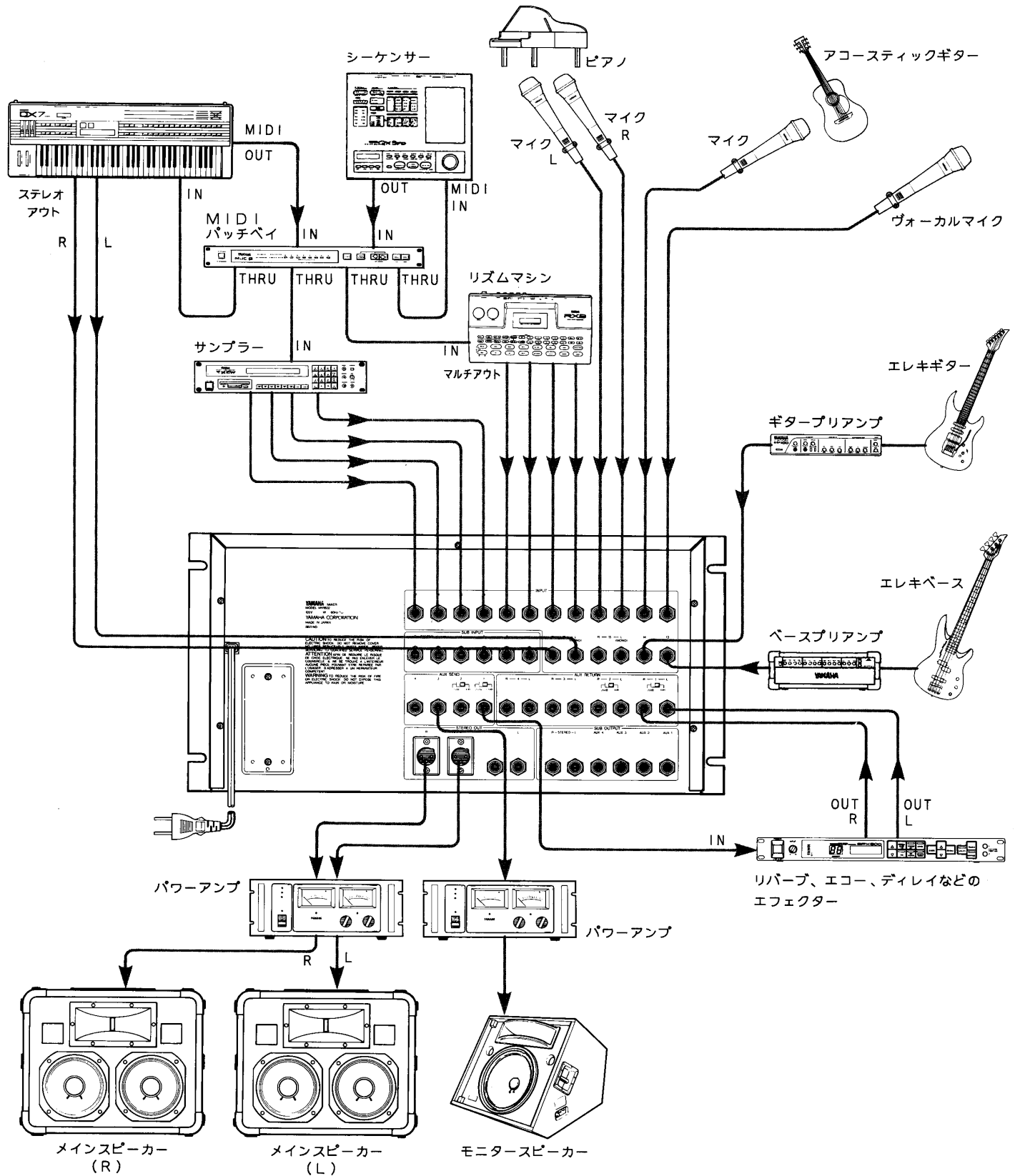
INPUTジャック⑮、⑯およびAUX RETURNジャック⑭から入力し、ミキシングされた信号を出力します。パワー・アンプやアンプ内蔵スピーカーを接続してください。XLRタイプ・コネクターは平衡出力で、規定出力レベルおよび適合インピーダンスは+4dB/600Ω、ホーン・ジャックは不平衡出力で、+4dB/10KΩです。

- 各チャンネルのインプット端子①から入力された信号は、イコライザー②で音質を補正された後、個別にレベルを調整され③、パンポット・コントロール④でステレオL,Rのバランス（定位）を設定し、CH1～16の信号とミックスされます⑤。
- 一方、4系統のAUX SENDジャックへも、それぞれ信号を送り出すことができます。
注)送る場合は、各チャンネルのSENDジャックのボリューム⑧を適度に上げてください。
- SEND1,2に送り出される信号は、イコライザー②及び、チャンネル・フェーダー③で音質と音量を補正された信号が送り出されます⑦。
- SEND3,4は音質及び音量を補正される前の信号が送り出されます。マスター・アウトとは全く違ったバランスで出力できるため、モニター用の出力端子として使うこともできます。
- 各チャンネルからSENDジャックに送られた信号はSENDボリューム⑧でバランスを調整され、ミックスされます。マスター部のSENDボリューム⑨で出力レベルを調整された信号は、リア・パネルの各SENDジャック⑩より出力されます。
- AUX RETURNジャック⑪から入力された信号は、RETURNボリューム⑫で音量のバランスを調整され、CH1～16チャンネルの信号とミックスされます⑬。
- ミックスされた信号は、ステレオ・マスター・フェーダー⑭で最終的に音量を調整され、リア・パネルのSTEREO OUTジャック⑮から出力されます。

● 信号の流れ



セットアップ例



仕様

全高調波歪率	0.1%以下 (20Hz~20KHz, @ +14dB/600Ω)
周波数特性	+1, -3dB 20Hz~20KHz (@ +4dB/600Ω)
ハム&ノイズ (20Hz~20KHz, Rs=150Ω, Input Gain=Max, Input Pad=0dB)	
入力換算ノイズ	-123dB
STEREO OUT	-90dB(残留ノイズ) -74dB(78dB S/N); MASTERフェーダー→ノミナル, 全CHフェーダー→最小 -59dB(63dB S/N); MASTERフェーダー→ノミナル, 1つのチャンネルフェーダー(CH1~8)→ノミナル
AUX SEND	-86dB(残留ノイズ) -69dB(73dB S/N); MASTER LEVELコントロール→ノミナル, 全CH LEVEL コントロール→最小 -59dB(63dB S/N); MASTER LEVELコントロール&CH1~8 LEVELコントロール→ノミナル
最大電圧利得	76dB CH IN(1~8) to STEREO OUT 36dB CH IN(9~16) to STEREO OUT 76dB CH IN(1~8) to AUX SEND 1,2 82dB CH IN(1~8) to AUX SEND 3,4 12dB AUX RETURN 1,2 to STEREO OUT 16dB SUB IN to STEREO OUT, AUX SEND 1-4

クロストーク(1KHz)	入力CH間 60dB 入力CH-出力CH間 60dB
ゲイン・コントロール	40dB(-60~-20dB) CH1~8
PADスイッチ	0/20dB
イコライザー特性	HIGH: ±15dB(10KHz シェルビングタイプ) MID: ±15dB(2KHz ピーキングタイプ) LOW: ±15dB(100Hz シェルビングタイプ)
バーグラフ・メーター	STEREO OUT, AUX OUTの出力レベル表示
CLIPインジケータ	CH1~8 INPUT(赤) プリ・イコライザー・ポイントで、クリッピングの3dB手前で点灯 バーグラフメーター(赤) ポスト・マスターフェーダー・ポイントでクリッピングの3dB手前で点灯
電源	AC100V(±15%), 50/60Hz
消費電力	32W
寸法(W×H×D)	480mm×265.3mm×213mm
重量	7.8kg

入力仕様

入力端子	PAD	ゲイン	入力インピーダンス	ソースインピーダンス	感度** (最大ゲイン)	入力レベル		使用コネクタ
						規定レベル	最大ノンクリップレベル	
CH INPUT 1~8	0	-60	10kΩ	50~600Ω マイク 600Ωライン	-72dB(0.19mV)	-60dB(0.8mV)	-34dB(15.5mV)	ホーンジャック
	0	-20			-32dB(19.5mV)	-20dB(77.5mV)	+6dB(1.55V)	
	20				-12dB(195mV)	0dB(775mV)	+26dB(15.5V)	
CH INPUT 9~14	0		20kΩ	600Ωライン	-32dB(19.5mV)	-20dB(77.5mV)	+6dB(1.55V)	ホーンジャック
	20				-12dB(195mV)	0dB(775mV)	+26dB(15.5V)	
CH INPUT 15,16 (STEREO)	0		20kΩ	600Ωライン	-32dB(19.5mV)	-20dB(77.5mV)	+6dB(1.55V)	ホーンジャック
	20				-12dB(195mV)	0dB(775mV)	+26dB(15.5V)	
AUX RETURN 1,2 (STEREO)			20kΩ	600Ωライン	-2dB(616mV)	+4dB(1.23V)	+26dB(15.5V)	ホーンジャック
AUX RETURN 3,4 (STEREO)			20kΩ	600Ωライン	-2dB(616mV)	+4dB(1.23V)	+26dB(15.5V)	ホーンジャック
SUB IN(L,R,AUX1~4)			20kΩ	600Ωライン	-12dB(195mV)	-6dB(388mV)	+20dB(7.75V)	ホーンジャック

出力仕様

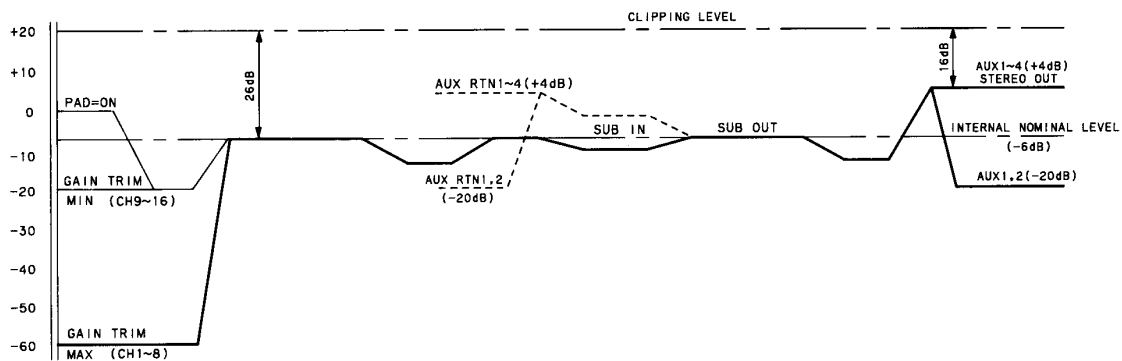
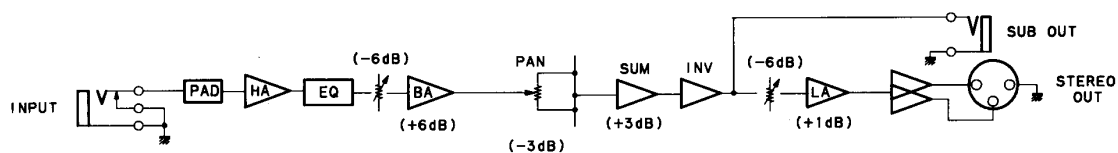
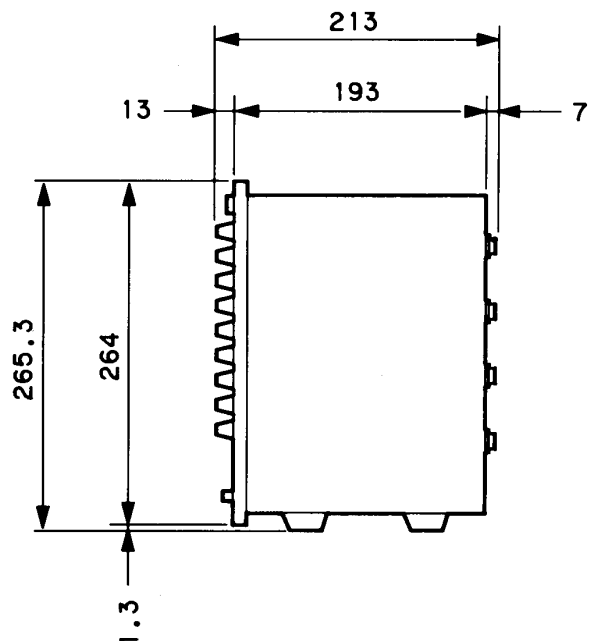
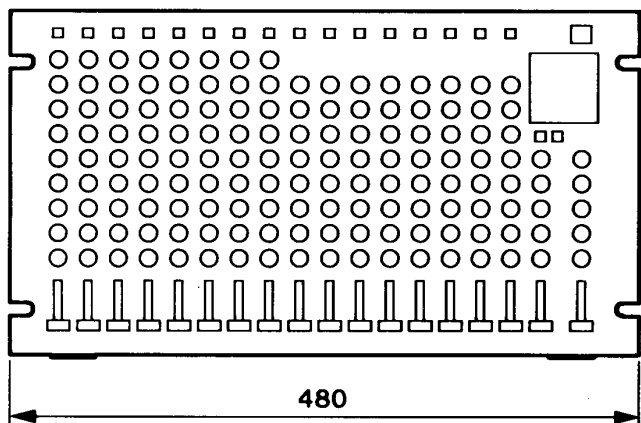
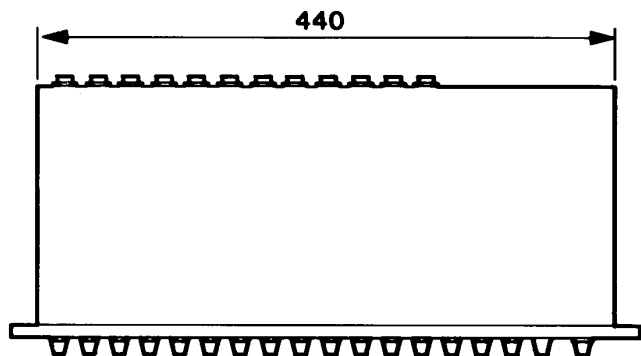
出力端子	出力インピーダンス	負荷インピーダンス	出力レベル		使用コネクタ
			規定レベル	最大ノンクリップレベル	
STEREO OUT	150Ω	600Ωライン	+4dB(1.23V)	+20dB(7.75V)	XLR-3-32タイプ ホーンジャック
	600Ω	10kΩライン	+4dB(1.23V)	+20dB(7.75V)	
AUX SEND 1,2	150Ω	600Ωライン	+4dB(1.23V)	+20dB(7.75V)	ホーンジャック
			-20dB(77.5mV)	+6dB(1.55V)	
AUX SEND 3,4	150Ω	600Ωライン	+4dB(1.23V)	+20dB(7.75V)	ホーンジャック
SUB OUT(L,R,AUX1~4)	600Ω	10kΩライン	-6dB(388mV)	+20dB(7.75V)	ホーンジャック
PHONES OUT	68Ω	8Ωヘッドホーン	1mW	20mW	ステレオ ホーンジャック
		14Ωヘッドホーン	3mW	130mW	

** 感度は、規定のレベル(+4dB=1.23V)を得るために必要な入力レベルです。(全てのフェーダーとレベル・コントロールを最大に位置した状態です。)

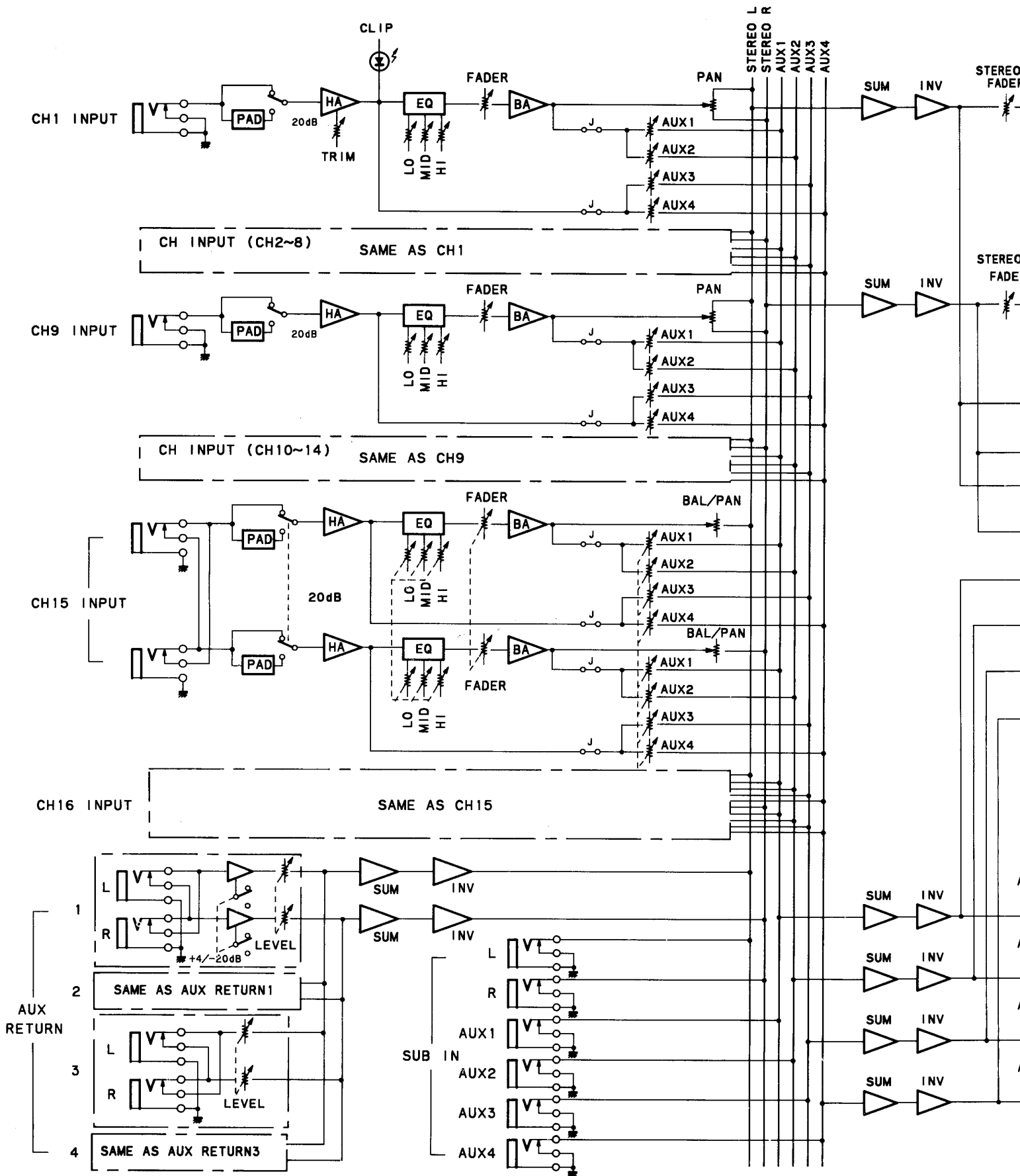
● 0dB=0.775Vr.m.s.

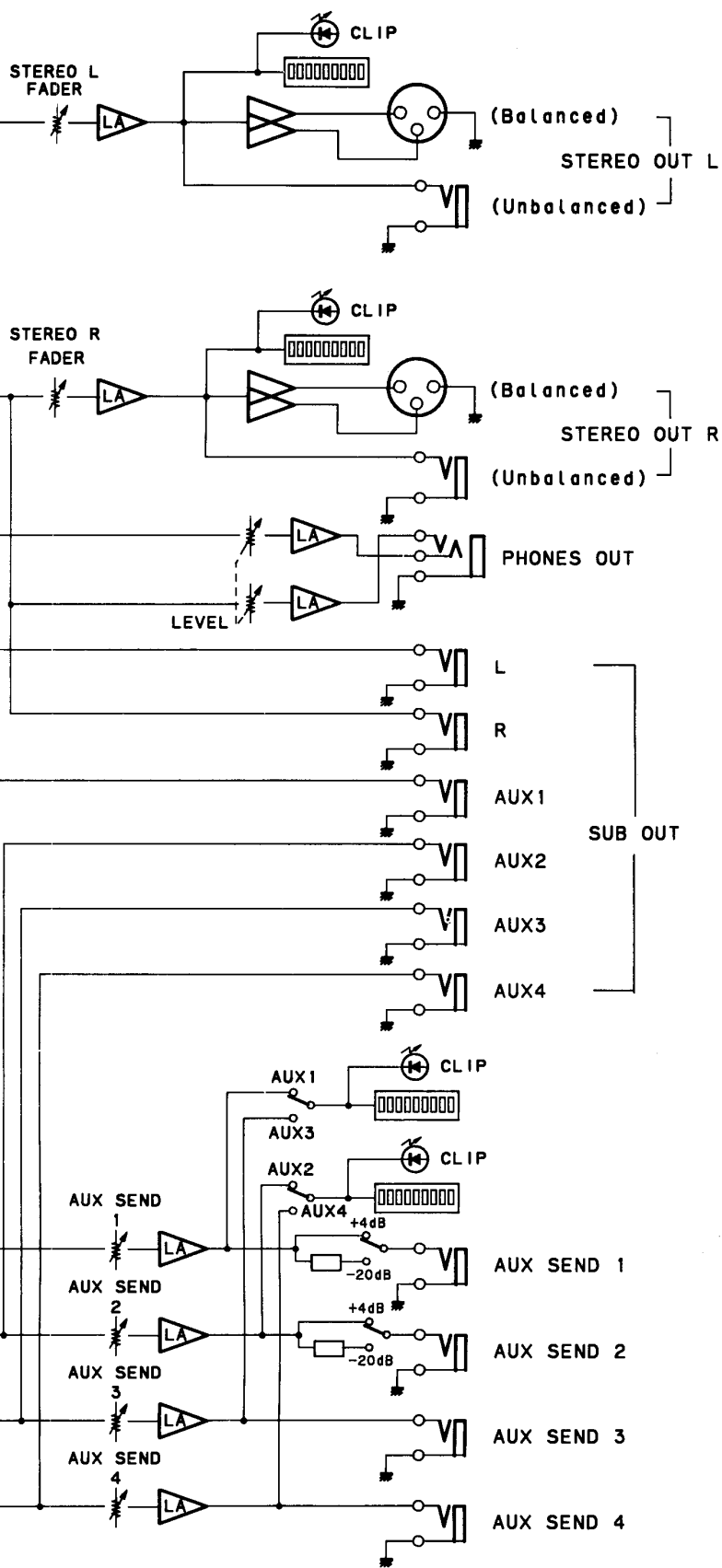
● XLR-3-32タイプコネクタは平衡(バランス)、ホーンジャックは、不平衡(アンバランス)です。

寸法図&レベルダイアグラム



ブロック図





サービスについて

本機の保証期間は、保証書によりご購入から1ヶ年です。(現金、ローン、月賦などによる区別はございません。)また保証は日本国内にてのみ有効といたします。

●保証書

保証書をお受け取りのときは、お客さまのご住所、お名前、お買い上げ月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効になりますので、くれぐれもご注意ください。

●保証書は大切にしましょう！

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまにご購入の日から向う1カ年間の無償サービスをお約束申しあげるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であつても実費を頂戴させていただくことになります。万一の場合に備えて、いつでもご提示いただけますように充分ご配慮のうえで保管してください。また、保証期間が切れましてもお捨てにならないでください。後々のサービスに際しての機種判別や、サービス依頼店の確認など便利にご利用いただけます。

●保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご連絡頂きますと、技術者が修理・調整致します。この際必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合にはサービス料金を頂く場合もあります。又お買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいは電音サービス拠点にご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引続き保証期間中のサービスを責任をもって行なうよう手続き致します。

満1カ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修用性能部品の保有期間は最低8年となっています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品のことです。)

そのほかご不明の点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

- 北海道電音サービスセンター 〒064 札幌市中央区南十条西1-1-50(ヤマハセンター内)
TEL (011) 781-3621
- 仙台電音サービスセンター 〒983 仙台市若林区御前5-7(仙台卸商共同配送センター3F)
TEL (022) 236-0249
- 東京電音サービスセンター 〒211 川崎市中原区木月1184
TEL (044) 434-3100
- 新潟電音サービスステーション 〒950 新潟市万代1-4-8(シルバーホールビル2F)
TEL (025) 243-4321
- 浜松電音サービスセンター 〒435 浜松市上西町911(ヤマハ/榊宮竹工場内)
TEL (0534) 65-6711
- 名古屋電音サービスセンター 〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2(ヤマハ/榊名産流通センター)
TEL (052) 652-2230
- 大阪電音サービスセンター 〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内)
TEL (06) 877-5262
- 京都電音サービスステーション 〒600 京都市下京区七条通南之町東入木町483(第2スマイル3F)
TEL (075) 361-6470
- 神戸電音サービスステーション 〒650 神戸市中央区元町2-7-3(ヤマハ/榊神戸店内)
TEL (078) 321-1195
- 四国電音サービスステーション 〒760 高松市丸亀町8-7(ヤマハ/榊高松店内)
TEL (0878) 22-3045
- 広島電音サービスセンター 〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39
TEL (082) 874-3787
- 九州電音サービスセンター 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472-2134
- 本社
電音サービス部 〒435 浜松市上西町911
TEL (0534) 65-1158

ヤマハ株式会社音響システム事業部

- 音響システム事業部 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL (0534) 60-2493
- 東京営業所 〒104 東京都中央区銀座7-11-3(矢島ビル)
TEL (03) 574-8592
- 大阪営業所 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9(心斎橋プラザビル東館)
TEL (06) 252-5231

ヤマハ株式会社楽器営業本部

- 北海道支店・LM営業課 〒064 札幌市中央区南十条西1-1(ヤマハセンター)
TEL (011) 512-6113
- 仙台支店・LM営業課 〒980 仙台市青葉区大町2-2-10
TEL (022) 222-6146
- 東京支店・LM営業課 〒104 東京都中央区銀座7-11-3(矢島ビル)
TEL (03) 574-8592
- 名古屋支店・LM営業課 〒460 名古屋市中区錦1-18-28
TEL (052) 201-5199
- 大阪支店・LM営業課 〒542 大阪市中央区南船場3-12-9(心斎橋プラザビル東館)
TEL (06) 252-5231
- 広島支店・LM営業課 〒730 広島市中区紙屋町1-1-18(ヤマハビル)
TEL (082) 244-3749
- 九州支店・LM営業課 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472-2130
- 本社・LM営業部 〒430 浜松市中沢町10-1
TEL (0534) 60-2431

※住所及び電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA